

痺れの原因

痺れを感じるのは神経のせいだ。その神経は、頭のテッペンから足先まである。だから、体のどこが痺れても不思議ではない。そして、原因もいろいろである。

71歳のKさん。だいぶ前から、時々、左足が痺れることがあった。それが、この頃、急にひどくなった。かかりつけの整形外科で、腰のMRI（磁気共鳴画像）の検査をしてもらった。

が、足へいく神経の通り道がやや狭いのは、以前と同じだ。急に痺れがひどくなった原因は、はっきりしない。その先生は、ストレスなどが原因で起きる心因性の痺れも疑った。で、思わず、「ウーム。神経かも?」と嘆息したようだ。

が、タイヘン。Kさんは、「神経II精神」と勘違いする。精神病を疑われて精神科へ行くのはイヤだ。脳神経外科や脳神経内科（神経内科）ではダメか。「神経」の患者も診てくれるはず、とでも言ったか?

それはともかく、医者が患者さんに「神経かも」というケースは、診断が難しい。患者さんの訴えは、たいがい不定愁訴だ。

自分だけにしか分からない自覚症状が主である。それも裏付ける医学的根拠が見つからない。痺れの原因が分からないことが多いのだ。

困ったワッシーがしたこととは、まずは頭のMRIの検査である。患者さんは高齢だ。足の痺れは、急にひどくなったという。ならば、頭の病気を否定できない。と、単純だが、な、なんと。頭の中に「慢性硬膜下血腫」が見つかったではないか。

血腫は、症状が出るほどの大きさではない。だが、もともとの腰の病気に脳の病気が加わったために、痺れの症状が明らかになったとも考えられる。ま、理屈はどうでもよい。診断できたのは「神経」を疑ってくれた整形外科の先生のおかげだ。終わりがければすべて良しである。

（石黒修三いいしへろクリニック・脳神経外科専門医・北國新聞掲載）